

消費者・生活者として 「水」に取り組む

多良木町婦人会連絡協議会

「役場から水問題でボランティアとして活動してもらえないだろうかと呼びかけを頂いて(堤琴代会長) ボランティア活動を始めた多良木町婦人会連絡協議会は、千三百人余りの婦人が参加している同町三つの校区婦人会の連絡機関です。現在、町のイベント、婦人会の会合などで開く廃油を使った石けんづくりの講習会と、水問題、過剰包装の問題などを掲載する会報誌(月一回発行)で環境問題に対する啓発活動を行っています。

「県外から嫁いで来た時、球磨川の美しさには目を見張りました。ところが今は水量も減り美しさも失われつつあります(堤会長)。「昔は小川で野菜を洗っていたのに、今では考えられないことになってしまいました(黒木雷副会長)」と、自ら環境の変化を目のあたりにしているだけに、「一人の主婦として小さなことから活動を始めていくべきだ」という決意がわかります。最近では若いお嫁さんたちが、婦人会の活動の話を聞いて食器を一度紙でふいてから洗うようになり、石けんづくりを始めたグループが出てきたりと、徐々にその活動の輪が広がっています。



堤・多良木町婦人会連絡協議会長



手づくり石けん・ゴキブリだんご実演コーナーで

教育の現場から 「地球を守る小さな試みを」

姫戸町立姫戸中学校

牛乳パック三十枚でトイレトーパーが五個作れ、アルミ缶一個を再利用すれば原品を作るのに使った半分の石油で作れることを皆さんはご存知でしょうか。姫戸中学校(近藤健二校長)では、生徒会を中心にアルミ缶と牛乳パックの回収を行っています。そして、アルミ缶はその益金で花の苗を買って校内緑化に役立て、牛乳パックの益金はユニセフへ送り福祉資金の一部になっています。つまり、リサイクルによって資源を大切に、さらに環境緑化や社会福祉に役立てているのです。

「子どもたちに常に環境を意識させ、地球を守るために自分たちができる小さな試みを続けていきたい」と指導者の坂本敏夫先生。この生徒会を中心とした小さな試みが今では保護者に広がり、地域の人たちに広がってきました。そして、資源保護活動とともに町全体がきれいになったといえます。「資源を大切にするのはまず心づくりから。ボランティア活動、リサイクル活動を通して、地域を愛する心を育てることが大切と考えています。今後は学校教育の中で環境問題をより効果的に正規の授業にとり入れていくべきではないでしょうか。」

集めたアルミ缶をつぶして業者に渡します



牛乳パックの整理をする坂本先生と生徒会のメンバー

地域を愛する心とから始まる 自然環境保全

矢部郷自然観察会

矢部に生まれ育った藤吉勇治さんは矢部中学の理科の先生です。「矢部独自のなだらかな地形に残された自然に触れようと地域の仲間を誘い合って観察会を行ったのが五年前。環境問題を真剣に考えるためには継続して観察会を行う必要がある」と、翌年に矢部郷自然観察会を発足させ、現在五人の運営委員を中心に百四十三人のメンバーが、年に五回、観察会を実施しています。「地元の良さを地元の人が知らない。豊かな自然を再認識すれば残していくことの大切さがわかるはず(藤吉代表)」と、植物観察やきのこ狩りに行き、その体験を子どもたちがつづいた「森のたより」を発行したりしています。会員のほとんどが家族ぐるみで参加しているのも特徴の一つ。これまで植物の名前を知れば安心して子どもたちも、今ではもっと深いことを知りたがるようになりました。それも説明を受けるために植物をちぎり取って来ていた子どもたちが、指導者を現場に連れていくようになりまし。ペーパーの上だけの知識から心に訴える感性や生命に対する現実感を学ぶように変わってきたのです。藤吉さんは「観

察会や教育を通じてだけでなく、どこにいても子どもたちが自然の良さを感じられるようになることが大切。そして自然への愛着が増せば、自然環境を守る心が子ども頃から育っていくでしょう。その子どもたちがまたその子どもたちへと、すばらしい自然を伝えていくことになるでしょう。」と、自然を生かした街づくりをテーマに活動を続けています。



採取したキノコを前に……



子供を集めて地形の説明をする藤吉さん(観察会)